

利尻登山に関わる課題と対策（第2回検討会 意見出しのまとめ）

【資料2】

山の課題		対策	具体的アイデア	役割分担	実施時の課題(※)
崩壊の進行	崩壊自体は止められない 近いうちに崩壊が起こる可能性がある差し迫った問題 崩壊・浸食により貴重な生物相や植生が失われる 守るべき自然対する具体的なデータの不足	場合毎の判断基準を作る 通行止めにする 崩壊状況のモニタリング 動植物(固有種など)の調査		基準作り・話し合いは協議会 モニタリングは行政(協議会)	通行止めの基準
利用による荒廃	登山者による人為的な登山道の荒廃 スコリアを崩さずに登れる登山者はいない	利用制限のルール・システムづくり 適切な情報提供による登山者の誘導	時間・人数による利用制限システムづくり 期間を決めた夏山登山の推進 開山日・閉山日などの期間の設定 広報による段階的な導入(8、9月への分散) 雨風時の登山についての統一ルール作り 登山口での電光掲示板による通行止めのお知らせ	ルール作りは協議会	登山の代わりとなるものの提示 人為だけでなく自然に荒廃が進行する
安易・危険な登山	思いつき登山が多い・止めるすべがない 登山者自身のレベル・認識と利尻山の現状の乖離 利尻山の固有問題・情報の認識・発信不足 情報やマナーの不統一・メディアにより扱いが異なる 情報が確実に伝わっていない 情報提供拠点がない	情報提供内容の統一	具体的な事故事例を積極的に公表する。 基本的なマナーの統一 575のキャッチフレーズ(合言葉)のルール作り 登らせないという視点も取り入れる 他の山との違いを明確にし、整理して、発信する。	協議会が中心 協議会から専門機関化へ エコリズム協議会の設立 利尻山管理を担う組織作り	それでも登ると言う人がいる 情報提供を十分して、自己責任を周知しても訴訟を免れないこともある。 情報を発信した場合の責任の所在
		情報提供経路の確立	宿泊施設での情報提供 旅行会社から正確な情報を伝える フェリーでの案内 雑誌、ガイドブック、メディアでの正確な情報提供 雑誌、ガイドブック、メディアへの積極的な働きかけ 全国の山岳団体等に向けた情報発信 宿泊業者への定期的勉強会 登山前にレクチャー	研究者・ガイド組織のネットワーク ボランティア、NGO、山岳会によるサポートネットワークを作る 利尻固有問題の説明は地元の人	
	各登山者のレベルにあった情報の発信・伝達不足	レベルに合わせた情報提供	持ち物やレベル等の自己確認を促す 認識度の確認システム(チェックシートのようなもの) 宿泊施設で登山者レベルに合わせた情報提供		各人のレベル把握が難しい
		装備の貸し出し ガイドの紹介 パトロールの常駐 避難小屋の有料化	宿泊施設での装備の貸し出し ガイド紹介システムの確立		
崩壊箇所の危険	三眺山から先が安全面で心配 親不知子不知は天候により危険がある	危険箇所など登山道の監視 崩壊の危険があるとの情報提供		協議会・行政	
登山者の把握	登山者を管理するしきみがない	登山届提出の徹底 VCでの登山者・計画書チェック 登山の事前予約制	届出先の明確化		
	登山者のニーズが把握できていない	登山者の意見を聞く	モニター調査 定期的なアンケート調査の継続 登山口や宿泊施設に目安箱を置く		
費用不足	登山道の整備・維持、環境保全に費用がかかりすぎる 地元負担が大きい	登山者が費用の一部を負担	携帯トイレを値上げし(¥1000)、余剰を管理費に回す (長期的には)携帯トイレを義務化	協議会が実施	お金の管理が難しい 協議会の人手不足
人手・人材不足	立地条件、過疎化による整備・維持の人手・人材不足 整備・維持に労力がかかりすぎてキリがない。 地域性から他の山岳地のような取組ができない。 立地条件から、島外からの支援が難しい。 ボランティアが集まりにくい リピーターが少なく利尻ファンが育ちにくい	ボランティアの確保・育成	島外から人材を確保 安く泊まれるように宿泊業者も協力	協議会が中心	人材の確保が難しい
	人づくりの場の不足 島民の山への関心が薄い、明確なビジョンがない 島民が他の山との比較ができない				
	次世代の育成ができていない	学校教育の場の活用	学校教育に利尻山の現状を取り入れる	教育委員会・学校関係、山に詳しい人・団体	協議会に依頼があるが人材不足
管理組織が不十分	整備・維持管理の組織不足 個人レベルの取組が多く継続性に不安 人事異動で話が振り出しに戻る 協議会の人手・人材不足	地元関係者の持続的な意志決定・経路確立			
管理責任	事故があった場合の管理責任が心配	管理権限の明確化			
利尻以外の魅力	利尻山以外のエコリズムの観点が浸透していない 利尻山以外の魅力・アクティビティが提示できていない 島内ガイド不足				ガイドで生計を立てられるか

- ◆全体に関わる事項 予防的対策が少ない/地域振興と登山と環境保全の両立/環境保全活動の産業化
- ◆整理できなかった課題等 整備は登りやすさではなく、利尻山の保全を第一とする/混んでいる利尻山は利尻山らしくない/研究が現場に活かされるシステムがない/浸食量データ不足

※全ての項目に共通する課題
人材不足 育成機関と機会の不足、地元の費用不足

